

非営利型株式会社Polaris 定款

第1章 総則

第0条 (ビジョン)

いつでもどこにいても、何をしても、その人らしくいられる社会

はたらくとは、その人らしくあることであり、はたらくとは、その人らしく暮らすこと。

子どもがいてはたらくことが、ハンディではなく、あたりまえの世の中に。

子どもがいること、いないことが、特別なことではない世の中に。

子どものいる暮らしの中ではたらくということ

子どもという守るべき大切な存在が増えることで、暮らしが変わる。

はたらきかたも、はたらく意味もかわる。

自分のすべてを自分のために使えなくなるけれど、だからこそ創造性や創意工夫を手にすることができる。思考をはたらかせた上で、やるやらないは自分で選べる世の中に。

はたらきかた、暮らしかたの選択肢を増やす

ライフステージごとに、はたらきかたや暮らし方のバランスは変わっていく。

たとえば0歳児の子育て中に必要なこと、保育園に入った後、幼稚園に入った後、小学校に入った後。子どもたちの成長にあわせて、暮らし方や大事なものは変わっていく。

0か10じゃない生き方をふやすこと。ライフステージごとに選択肢が自由に変更できること。

複数の選択肢を組み合わせることができること。ないんだったら、創っていこう。

選ぶ目を持って、選んだ選択肢を行使する力をもとう。

いつだって選べるし、いつだって変更できる。やりながら試行錯誤ができる世の中に。

カセギとツトメ、自由と責任

「稼ぎがあって半人前、つとめを果たして半人前、両方合わせて一人前。つとめはひとさま、世間様のためにひと肌脱いで役に立つこと」。

お金は大事。お金があれば、選べるもの、できることが増えていく。

人とのつながりや縁も大事。社会の中で安心して過ごすためのちからになる。

カセギとツトメをつなぎ直すことで、それぞれにあった自由と責任がうみ出される。

自分のために過ごし、果たす仕事が次の誰かにつながり、みんなの豊かさをうみだす仕組みとなる。

お互いがお互いを活かしあう社会に

一人ひとりが本領を発揮しながら笑顔ではたらくことで、社会全体が元気になる。

一人ひとりの持ち味を活かすことで、最高のチームと最高の職人がうまれる。

より豊かな多様性が、社会全体の選択肢を増やし続ける。

いまはまだ「ありえない」かもしれないけれど、未来では「あたりまえ」のはたらきかたを創る。